

平成 30 年度仁淀川清流保全推進協議会全体会 議事概要

日 時：平成 30 年 6 月 13 日（水）14：00～16：00

場 所：いの町 かんぼの宿伊野 1 階 中会議室

出席者：【委員】 12 名

【事務局】 環境共生課 3 名

【その他】 委員随行者 1 名

1 高知県林業振興・環境部環境共生課長補佐あいさつ

- ・委員の紹介
- ・会の成立を報告
- ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することの了承を得る。

2 議事

(1) 役員改選及び監事の指名について

- ・吉村委員から会長に石川委員、副会長に井上委員の留任要請の発言があり、各委員の異議がなく承認された。
- ・監事について、石川会長から岡村委員及び中澤委員への指名があり、両委員の承認をもって留任となった。

(2) 平成 29 年度事業報告及び収支決算（案）について

- ・事務局から【資料 1-1、1-2】を用いて説明
- ・岡村監事から監査報告があり、各委員の異議がなく承認された。

(3) 平成 30 年度事業計画及び収支予算（案）について

- ・事務局から【資料 2-1、2-2】を用いて説明

【主な意見】

(委員)

仁淀川の一斉清掃において、実施日の 10 月 20 日の 1 週間後に豊かな海づくり事業が行われるが、河口におけるゴミの現状を見せたくないため、経路の確認や清掃の協力依頼をお願いしたい。

⇒ 担当課の水産政策課に確認のうえ、連絡する。

(委員)

仁淀川シンポジウムについて、今年度は休みということだが、仁淀川漁協でも8月にシンポジウムを開催している。協議会に共催という形で取り組んでいただきたい。
⇒ 今年度及び来年度にシンポジウムに替わる取組を実施予定であり、その後またシンポジウムに戻るかどうか、はっきりと方針は立っていない。共催にできれば、もっといいものができるのではないかと、いろんな層の方々に来てもらえるのではないかと期待しているところである。どのような形でつなげていくか、部会や全体会で報告させていただきたい。

(委員)

シンポジウムに替わる取組において、別紙4の開催時期で平成30年度は2回開催となっているが、資料2-1の事業計画及び2-2収支予算において、3回実施ということになっている。
⇒ 修正もれである。今年度は中流域部会、上八川川流域部会の2回開催ということで計画している。1回分は予備費に修正させていただく。

(委員)

キーワードが子ども、両親、家族。取組を横に広げていこうとしたときに、教育関係者を巻き込めないか。先生は忙しいため大変だとは思いますが、1つのサイクルの中に入り込められたらいいと思う。
⇒ まさにそのとおりで、今年開催予定の川の安全教室、こちらにも学校現場の方をどう絡めていくかというので、非常に苦慮している。教育委員会もかなり回ったりもしたが、時期が悪かったという事情もあって、絡めきれない状況にある。シンポジウムに替わる取組は今後内容を詰めていくが、学校現場と協力して、例えば上流域の子ども向けの川の安全教室だったら、学校の授業の一環でできないか交渉したいと考えている。いろんな世代が関わっていけるような形を模索していきたい。その積み重ねが、今後協議していく計画改定の際に、どうやって子どもたちを川へ呼び戻すかという部分での具体的な取組の参考になっていくのではないかと考えている。

(委員)

仁淀川のキャッチコピーは2つあり、全国へのPR等考えると、仁淀ブルーだけでいいかと思う。
⇒ どういう形になるかは分からないが、観光協議会等へその旨伝えさせてもらう。

(委員)

シンポジウムに替わる取組を、今年度と来年度で上流から下流において5回やるとのことだが、またシンポジウムをするのかといった計画は、取組で出た意見や取りまとめの結果を踏まえて来年度に話し合うということで理解しておいてよろしいか。すでに計画や意見があれば教えていただきたい。

⇒ 少なくとも今年度にシンポジウムに替わる取組を2つやってみて、アウトプットが一定出たところで考えたい。上流域等を前半にやることができれば、来年度の早い段階で部会等で協議させていただく。シンポジウムありきで考えると、少し幅が狭くなってしまわないかと思う。どういう形であれば、流域でやってきた一つ一つの取組を波及させることができるか、仁淀川の良さを伝えられるか、最適な形を探っていきたい。

⇒ それぞれの流域にあった取組を、最終的には流域全体で共有できるようにしたい。それがシンポジウムになるのか、また違った形にするのかというのは、来年度話し合っていきたい。

(委員)

我々、漁協としては、31年度はできたら一緒にという形を取ってもらいたい。漁協でやっているシンポジウムも同じように清流についてだが、清流という言葉は直接ポスターには書いていない。仁淀川の森と水を考えるシンポジウムとして、いかに豊かできれいな川を作るかとの考えで始めてきた。アユが一番ということで、アユに特化して県の内水面漁業センターの方に講演いただいている。先輩がこうして続けてやってきたシンポジウムなので、協議会との関わりも非常にあるのではないかと組合長になって思った。先ほどの意見でもあったように、共催という形で進めていただけたらと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

⇒ アユといった魚類の増殖には、やはり豊かな水環境というのが必須である。それは清流保全計画の目指すところとも一致しており、漁協と一緒にあれば非常にこちらも心強いし、是非やっていきたいと思う。来年のシンポジウムについては、今年度2回計画しているシンポジウムに替わる取組の結果を踏まえて、どういう形が一番いいかといったことをまた協議させていただきたい。

(副会長)

私たちがシンポジウムで行ってきたのは、アユの数の減り方とかそういったことを年に1回みんなで集まって、仁淀川の課題を考える日を作ったらよいというのが1つ。それと流域で活動している人も、隣町でどんな人がどんなことをしているか全然知らないため、年に1回集まって情報交換をしようという2つの目標、目的があったように思う。仁淀川漁協で毎年実施しているシンポジウムに、仁淀川の問題や、課題の解

決を考える役割を持っていただき、もう1つの隣の人が何をやっているかについての情報交換は別の方法ではどうか。今はフェイスブックやホームページ、そういったものでも情報共有ができる。活用の仕方等については今年やってみるということで今後進めていけたらと思う。

(委員)

製紙業界の状況を申し上げますと、今朝の高知新聞に池田町長が高知市の提案に対してきつく臨むという決意表明があった。設備を最初据えるときに用途を限定してお金が下りてくる。20年、30年たってきて設備が陳腐化してきたり、より高度な設備が出てくる。新しい設備を据えれば今の2倍ぐらひはきれいな水に多分戻せるというのがあるが、今の条文の中では用途としては認められないと、ここ5年か10年堂々巡りになってるところである。水を使いながら水をどれだけきれいにして返すかという目的は同じなので、運用について条件面にもう少し柔軟性が欲しいという旨は町長に伝えている状況である。設備を更新、ないしは追加をすると今の倍ぐらひはスラッジが増えてしまうが、それが今は許されないといったところで詰まってしまっている。私どもが入れたときは、まだ制度がなかったので、5,000万円かかってしまった。そういった努力を無にしないような運用の仕方があってもいいのでは思うので、町長には頑張ってください。

(委員)

川の問題もかなり時間をかけてやってきたが、あまり大きな進展がないままである。川をきれいにしようと言っても、人がなかなか寄って来ない。30年ほど川遊びをしているが、30人を越えたことはない。メンバーがどんどん変わってきている。最も現場に関心のある漁協とか、そういうところが集まれば、何かいい知恵が出るのではないかという気がするので、シンポジウムに替わって何をしようかというときには、そういった具体的に取り組んでいる人たちとやってみようという考えもよいと思う。

⇒ シンポジウムに替わる取組で、若い世代、お父さんやお母さん、子どもたちをターゲットにしているが、その講師として地域のいろんな川で活動をしてる方に来ていただくという方針になっている。こういう方を呼んだらいいのではないかとかが、事務局に連絡いただきたい。

平成30年度の事業計画及び収支予算(案)について、各委員の異議がなく承認された。

(4) 仁淀川清流保全計画改定の進め方について

- ・事務局から資料3を用いて説明

【主な意見】

(委員)

5年前に見直しをしたときに、ちょうど仁淀ブルーという話が出てきたので、新しい清流に対するインパクトがあるのではないかと、当時なかった観光を計画の中で少し重みを付けないといけないのではないかとという話をさせていただいた。ラブリバーパートナーシップでゴミ掃除をしているときに、確かに地域の方が捨てられるゴミはたくさんあるが、波川公園などそういった観光客が多く来るところでは、持ち込まれたようなゴミ、そこでバーベキューをして捨てて帰るというようなことが、ひどくなっているという声を聞いた。そういった意見を計画にどう反映させていくのか、拾い上げるのかといった仕組みが一定必要だと思っている。各流域5部会の中で意見が出ればいいが、もし出なかった場合、ワーキンググループを立ち上げたので、取組状況に関する調査みたいところで意見を拾っていただくというのもよいのではないかと。なかなか検証するのは難しいと思うが、問題がどれほど残っているのかという中で、次の5年後に向けて、少しでもできればということをお願いしたい。

⇒ 仁淀川を取り巻く環境、状況が年々変化しているということで、その中で仁淀ブルーで観光客が増えて、新たなゴミ問題が発生しているということである。それをどうやって計画に反映していくかということは、ワーキンググループがせっかく動き出すので、そちらでも進めて、皆さんとゴミの状況を共有できたらいいと思っている。大下委員が言われたように、これから見直していくにあたって、こういうところに気をつけたらいいのではないかとか、そういったご意見があれば是非いただきたい。

(委員)

5月31日の下流部会で、いの町役場の環境課から意見があった。バーベキュー、そして川遊びに来られた方へのアンケート調査を取りたいとのことで、今年度実施するという話を聞いている。そういった意見も、集約された意見も生かしていければと考えているので、是非よろしくをお願いしたい。

(委員)

過去にいただいたさまざまなご意見、その対応を当然踏まえてやっていきたいし、また、5年前とは状況が変わってきて新たな意見もあろうかと思う。委員だけでなく、いろいろな立場の方の意見をできるだけ伺ったうえで、いいものに作っていきたい思っているため、是非今後とも意見をいただければありがたい。

(委員)

映画を見ると、ハヤシ釣具さんがライフベストをつけて川で泳いでいる宣伝を出していた。河川で遊ぶときにちゃんとフローティングベストを着けなさいと出ていたので、こんなのもありかなとふと思ったところである。川で遊ぶのはいいが、やはり死亡事故も多い。観光や仁淀ブルーで優しいイメージがあるが、この河川は荒れるときは本当に凶暴なんだと、バーベキューなど河川敷で遊んで死んでしまうことがあるというのを、水の恵みの裏側に凶暴さがあるので、その辺もPRはしなければいけない。毎年何人か亡くなっていることから、RACの川の安全教室はいいと思う。水の恵みで遊びながら亡くなられてはかなわないというのが下流部会の意見であった。

⇒ 川のいい面ばかり宣伝するのではなく、危ないところもちゃんと皆さんに周知していかなければならないということで、国交省も川の危険マップを作られている。いろいろと連携して、川の危ないところもきちんと皆さんに知っていただけるようにしていきたい。それから、ライフジャケットを着けることはだんだん世の中の流れになってきているが、着けて遊んでない方も多くいる。川の安全教室などがきっかけになって、ライフジャケットの普及が広がっていったらいいと思う。

(委員)

利根川は流域面積でいうと1万6,000平方キロメートルと仁淀川の10倍あり、鬼怒川は大体1,500平方キロメートルぐらいと、仁淀川と同じくらいある。平成27年に鬼怒川が堤防決壊した瞬間、当時は晴れていた。雨がやんで、これから遊びにいけるという状況で鬼怒川は決壊している。これぐらいの流域面積になってくると、上流では大雨が降っているが、下流や河口では降ってない。けれども川としてはすごい危ない状態だということは十分にあり得る。危機感をあおることばかりしても仕方ないが、普段から川に触れ合ってもらう中で、良い面も悪い面も含めて知っていただくというのはすごい大事だし、いろんな面があると知ったうえでどンドン川に近づいてほしいと思っている。今日は晴れているけど行ってはだめだいうところも含めた感性を持った子供たちを育てることが大事だと思っている。

(委員)

上流域からいうと、実は今、葦の繁茂がすごいことになっている。自分が子どものときはなかったはずである。生活排水等の富栄養化によるだけでなく、石や砂が適正に流れていない。河川を完全に遮断してしまい、小石、砂利、土だけを流して栄養価のあるものを河川に堆積させなければいけない。そういったことが1つの大きな問題ではないかと思う。今どうこうできることではないが、大きい石が流れるように、いわゆる砂防堰堤に適正にスリットを入れるとか、せめて50cmぐらいの小さい石は流せるように、計画の中に見直しという形で入れていただきたい。これが下流までもう既

に出てきている。

(委員)

実は、去年の九州北部豪雨によって、スリット型堰堤がコンクリート式の堰堤よりも、初期の水を流して流木も土砂もちょうと止めて、平常時もそれなりに流すということが分かった。今あるものを改造するのはなかなか難しいし、今後まだ砂防堰堤を作っていかなければいけない状況に県もあるかと思うが、今後新たなものを作るにあたっては、そういった方向に工夫すべしという方向で、転換し始めている。

(会長)

森林管理からすると、手入れされてない人工林がたくさんあるが故に山が崩れやすくなるとか、土砂の流入がひどくなるといったことも、もしかしたらあるのかもしれないと思うがどうなのか。

(委員)

この流域で、国有林の割合は10パーセントと極めて低いので、仁淀川についてということで話すより、一般的な森林ということで話をさせていただきたい。おっしゃるとおり、確かに手入れの不十分な山が全国的にあり、そういった観点もある。森林環境税、森林環境譲与税というものが新たに作られ、市町村でも森林整備をやっていただくかたちになっている。

また、新たに森林経営管理法というのを作り、それを後押しすることも林野庁としてさせていただいている。森林全てが仮に適切に整備されたとしても、大量の雨が降れば、森林で守っていくというのはなかなか難しい。森林を整備し、国交省及び県の砂防、ダムと一体的に国土を守ることが大事だと思っている。

流木のスリットダムの話が出たが、九州北部豪雨でスリットダムの重要性というのが十分に認められたところがある。砂防ダムの上流部には治山ダムというのがあり、治山事業でも条件が合うところについては、スリットのダムを作っていくということである。四国森林管理局としても、森林保全について取り組んでいきたいと思っている。

(委員)

以前の全体会のときにも話をさせていただいたが、人材の育成と、機械化を図っている。仁淀川町から林業家育成強化対策事業で、年間180万円の人件費と、各研修生受入事業体に指導費として月5万円をいただいている。住宅は無料で提供するというかたちで事業を実施し、毎年5人程度の林業家を各事業体が受け入れて育てている状況である。

また、子どもが東京や大阪へ出ていて後を継ぐ者がおらず、多かれ少なかれ税金も

かかることだし、この際手放したいとの問い合わせがよくある。ところが、山のいろんな箇所に、一部は保安林、一部は一般の植林の40、50年の山がある。それではなかなか森林組合としても買い取ることが難しく、事業としても成り立たないということで、仁淀川町には、森林環境税に関係してくると思うが、何とか救済措置は取れないかというような話はしている。例えば、財産を全て子どもたちも放棄するので、町に一括無償で提供することで引き取れないか。そうすれば、引き取った山に対して第三セクターなり事業体を立ち上げて、そこが計画を立てて整備していく。その中に森林組合も入りたいという話はしている。国、県、仁淀川町にも相談して、そういうことができるのかということをお願いしている状況である。

仁淀川清流保全計画改定の進め方について、各委員の異議がなく承認された。

(5) その他

(委員)

- ・仁淀川親子バスツアーの案内

(副会長)

水循環と関連しての話となるが、明後日に私ではなく別の方ではあるが、中津溪谷を案内させていただく。

また、7月8日の同じ日に、安居溪谷で風の草刈りという、3月にガイドした環境再生医の方たちと一緒に草刈りをやる。7月8日は1回目で、これから何回もやっていく。皆さんにまた案内するので、参加していただけたらと思う。

(委員)

スノーピークという新潟県の会社、隈研吾氏の住箱の施設を運営されている会社にお邪魔した。越知町には温泉がないため、是非、吾北のむささび温泉へ足を運んでいただけないかということで、お邪魔した次第である。越知町の出来地という場所がいの町寄り、車で15分ぐらいの場所に位置している。新潟県の会社で、当然いろんな河川を見ているので、議事4の計画改定の話も含め、ワーキンググループか中流部会に入っていただけてはどうか。なかなか河川に詳しい方がいたので、是非越知町を含めて話し合われたらいいと思う。

(委員)

今年の4月に、国土交通省、県、市町村、パートナーシップのメンバー、地元の方々と土佐市側及び高知市側の河口域の一斉清掃を実施した。ゴミの量が0になるという

ことは、私が生きてる限りは無理だろうと思っているが、協力してくれる人が少しずつ増えてきているなというのは、すごく実感している。今回も農協の方が小さな子どもをたくさん連れてきてくださっていて、非常にいい場や機会となってきたと感じる。

仁淀ブルーを売っていくうえで、河口にある施設の南風、そこに来る方もたくさんいるので、是非ともいろんな機会でも南風周辺の掃除をしていかなければいけないだろうと思っている。上流から流れてくるゴミもたくさんあるが、河口においてソファやガスコンロといった明らかに捨てるつもりで捨てられているゴミもある。非常に悲しい思いをする部分でもあるので、これからもそういった負の部分が仁淀川にはあるんだと、それをいかに後世に残さないようにしていくかが使命と思っている。秋にはまた河口の清掃があるので、是非来ていただけたらと思う。

(委員)

産業廃棄物の処理において、持って行く場がない。あるにはあるが、お金がかかるので、山に捨てに行くのではないかと。協議会でこんな意見があったと、どこかに提言してやるべきことではないかと思う。

閉会